

第2回熊本市動植物園マスタープラン推進会議議事録【要旨】

日時:令和5年(2023年)12月21日(木) 9:30~11:00

場所:熊本市動植物園いきもの学習センターレクチャールーム

議 事

- ・前回会議におけるご意見への対応状況について
- ・熊本市動植物園コレクションプラン(案)について

《委員(出席者)》6名(2名欠席)※役職順、五十音順

- ・佐藤会長(神戸どうぶつ王国) ・副島副会長(熊本大学)
- ・飯村委員(熊本県立大学) ・伊藤委員(東海大学)
- ・太田委員(市民公募) ・清家委員(公認会計士)※欠席
- ・村上委員(株式会社ヒトコト社)※欠席

《事務局》

- ・藤田部長(観光交流部)・外山園長(動植物園)
- ・本田副園長(動植物園)・松本副園長(動植物園)

議事録(要旨)

○前回会議におけるご意見への対応状況について

<伊藤委員>

No.1の動物園と東海大学の調査研究のところで、東海大学として調査研究に関する組織化をお願いしたいが、それだけではなく、他の研究者の皆さんも巻き込んだ動物園と研究者全体の集まりを設けて、資料にあるような報告会等の開催を目標にすると良いと思う。また、その組織体制としては常時、研究者の方が入りやすい形が一番いいと思う。

また、話が変わるがNo.4のよし池に関する今後の方針に関して、資料に記載されているような改修をしていくのであれば、データを取りたいという研究者の方がいると思う。今後のよし池について、どういう方針になっているのかお聞きたい。

<事務局>

よし池の改修に関する今後の方針として、まずは生物多様性事業の地域戦略を進めていく上で連携している四課(※動植物園、環境政策課、博物館、環境総合センター)で、素案を揉んでいきたいと考えている。また、素案を揉んだ後にこの推進会議の中で、委員の方々から意見をいただきたいと考えている。予算がかかる事業だが、職員でできるところから少しずつでも手をかけていきたいと思う。

<副島副会長>

No.4の生態系を感じる展示に関して、実際どういうことをしたら、結果どうなるのかというところがまだ曖昧に感じる。環境整備の実現は中々難しいものだと思う。外来種を取り除くというような、単純なことだけでは済まない。長期的な視野でやっていかなければならないと思うので、外部からの意見、専門家の意見というのを積極的に聞ける体制を作っていただきたい。

<事務局>

確かに専門的な意見をいただく必要があると思うので、しっかりと取り入れていきたい。

<太田委員>

No.6の学習プログラムの有料化について、これに限らず、今の園内の価格設定が本当に妥当なのかというところも今後考えていく必要があると思う。世間の状況も踏まえて、来園者一人当たりの単価を上げていくことも考えていく必要があり、収益性を改善していく姿勢を見せれば、No.4の実現に向けた予算の確保もしやすくなると思う。経営状況を見ながら検討をしていただきたい。

<事務局>

学習プログラムは多岐にわたるため、それを一気に有料化してしまうと、利用者に影響が出てくると考える。公立の動物園として、できるだけ多くの市民の方にご参加いただきたいというところも思いとしてあるため、バランスを図りながら、かつアンケート等で検証も行いつつ、学習プログラムの有料化とそれらも踏まえた収支改善に関して検討を進めていく。

<伊藤委員>

No.6の学習プログラムの有料化に関して、モノに対してだけ対価を払うお金の取り方は、かえって誤解が生まれる気がする。教育というか、知識の習得に対価を払ってもらうべきであり、最終的にそれが動物園の運営につながる形が理想だと思う。

<事務局>

今回、まずは材料費が必要なプログラムから有料化に取り掛かる方向で考えている。例えば、講師を呼べば、それだけお金がかかるが、そのような形でプログラムを単に有料化していくことは可能である。ただ、先ほど述べたとおり、一気に有料化を進めると、色々ご意見が出てくる可能性があることから、まずは資料のような形式を皮切りに、他のプログラムに関しても有料化の検討を進めていきたい。

○熊本市動植物園コレクションプラン(案)について

<伊藤委員>

動物福祉のところで、生きている間の状況については問題ないと触れられているが、死の状況(安楽死)について触れられていない。どのように考えているのかお聞きしたい。

<事務局>

当園でも動物福祉のため、かつJAZAの福祉基準をクリアするために、安楽死基準を定める必要があると考えている。苦痛を与える場合に、安楽死を選択の一つとするということは非常に大事なことである。ただし、実用的な基準を策定するというのは非常に難しい部分があるが、作成する方向で検討していきたい。

<伊藤委員>

もし福祉のことについて、コレクションプランに書くのであれば、今後運用基準を作っていくことは書いた方がいいと思う。文章全体で見ると、あえて死について触れてないのかもしれないが、生きている間の幸せのことが書いていない。福祉について述べるのであれば、死の状況についても、少なくとも今は検討中である旨は記載した方がいいと思う。

また、このレベルの冊子であれば、JAZAの基準等に基づき書きぶりを合わせた方がいいと思う。アニマルウェルフェアで「生きていると幸せです。」という内容だけでは、国際的なウェルフェアの基準とズレが生じる。あくまで生きている時の幸せと死の状況が、アニマルウェルフェアのセットになっているため、その部分については記述した方がいいかと思う。

<事務局>

動物福祉についてはコレクションプランと切り離せないテーマであり、その動物福祉に取り組んでいかなければならない大きな課題の1つと考えている。外向けに発信できるような基準を作る方向で検討したい。

<太田委員>

9ページにある「限られる資源」というところで、これがスコアリングにどう反映されているのか。スコアリングの結果より、高得点の種を推進していくということで、結果的にその資源が足りなくなってしまうのか不安に思う。そのあたりはどのように反映されているのかお聞きしたい。

<事務局>

例えば、施設に十分なスペースが必要な種や費用がかかるような種は、保全の必要性の指標が高くなり、実現不可能ということであれば、同様にスコアリングも低くなる。ただ、既存施設の改修によって新たに導入が可能になる種であったり、改修せずとも導入可能な種については、施設の実現性という観点で点数が多少上がってくる。スペース以外にも人のこともある。種が増えれば、それだけ専門的な担当者が必要になるため、その部分も含めたバランスを見た時に、本当に実現可能なかどうかは3番目の指標の維持可能性で図られてくる。バランスを見た時に保全的価値のスコアリングが高い種は、特に進めたいという考え方になる。

<飯村委員>

スコアリングした結果をオープンデータとして公開するのか。

<事務局>

今回のコレクションプランは、まだ案という段階であるが、今回の議事や説明資料はスコアリングも含めて公開する。

<飯村委員>

オープンデータ化するとこれを基にまた新たな研究が進んだり、起爆剤になるのかなと思う。また、カテゴリー別に切り分けてまとめられているため、子供たちの教材にも使え、これをきっかけに動物園の理解が深まっていくと思う。

今回の会議ではアニマルウェルフェアというキーワードがたくさん出てきていると思うが、この概念を基に、動物園を運営していることを理解してもらうことが、すごく大事だと思う。命の大切さに関して、人だけでなく動物に対しても、そういう考えのもとで動物園が運営されていることについて、子供たちに理解してもらえる場を動植物園で作ってほしい。同じ命だということがわかる、そういう場を動植物園から提供する、発信していく取組はすごく大事なことだと思う。

<佐藤会長>

普及啓発というのはとても大事なところで、JAZAも行っているが、一番大事なのは個々の施設が実施していくことだと思う。実際、これがこうなるんだ、こんな研究になるんだ、これを将来こうしていくんだとか、現実こうなったというのを発信していくことが、実施した施設の普及啓発の道理だと思う。

<副島副会長>

植物園の方もコレクションプランの調査・検討種というのが、希少種を対象としていると思うが、植物の生育には生態系が非常に大事であり、特にここが動植物園という珍しい施設であること、加えて江津湖という生態系的にも恵まれた環境に面しているということで、単に種を取り上げたものではなく、その種が存続していくための生態系というものにももう少し目を向けられないかなと思う。

もう一つ、伝統園芸種について、肥後六花の4種しか挙げられていないが、これに対してどういう姿勢で臨まれるのかが見えてこない。後継者も少なくなっているという話も聞いている。それに関わらず、文化財に指定されていないという現実があり、それこそ計画性も考えたうえで動植物園が果たせる役割というものがもう少しあるのではないかなと思う。

<事務局>

伝統園芸種に関しては、展示物を見ることができるだけでは不十分だと感じている。後継者の方々とも連携がまだまだ取れていないというところもある。そういった方々と連携して、後継者の方々の顔が見えるような関係性を築き、それらが伝統的にずっと続いてきたという思いも含めて、将来的に動植物園という場所が種を伝えていくためのプラットフォームになればと思う。

総括

<佐藤会長>

前半、後半共に大変よくまとまっている。前回会議の意見への対応に関しても、しっかり回答されていてとても分かりやすかった。それからコレクションプランについて、なぜすべての動物園がJAZAのコレクションプランを参考にするかという点、ずっと1つの施設で園内繁殖をすることは成り立たないが、多くの施設が実施することによって、個体群の健全化を図り続けることが可能となるからである。それが図られないと、いつかその種は無くなってしまう。コレクションプランで施設ごとにある個々の特徴はもちろん大事だが、他園と共通の動物の繁殖等に取り組むことが、その動物たちが今後とも、日本の動物園、水族館の中に居続けるためにとても大事なことであり、日本の動物園全体で、共通のコレクションプランの中で、頑張る必要があると思う。今回のプランでは、その方向性で作られているため、とてもよかったと思う。それから、生息域外保全は動物園機能として、とても期待されているところであり、これに関しては活動することで動物園のステータスも上がってくる。また、多くの人たちに対して機能性を訴えることもでき、非常にマスコミにも取り上げられやすいので、そういった意味では広報価値や効果は十分にある。マスコミが取り上げることで、結果的には来園者も当然増えて、普及啓発の効果も上がってくるため、生息域外保全への取り組みは動物園的に出資する意味があると思う。今後の残された課題の中に、コレクションプランにある動物の入手困難さという問題があると思うが、その解決に向けてさらに頑張っていただきたい。